

消費者の視点からみたキッズデザイン

子どもを傷害事故から守る社会の実現に向けて

平成23年2月15日

於)六本木アカデミーヒルズ

帝塚山大学法学部教授

NPO法人**NCOS**副理事長

タン・ミシエル

今日の話は

- NPO法人NCOSの調査から分かった子どもの安全の在り方
- 消費者の立場から「キッズデザイン(KD)」に期待したいこと

NCOS（エヌコス）とは

特別非営利活動法人(NPO)

「標準により消費者の利益を増進するコア・グループ」

Nippon Consumers Voice for Better Standards

平成15年6月設立

日本工業規格（JIS）などの制定や改正に関わる「標準化政策」に、消費者の意見がより一層取り入れられるための環境作りを目的とするNPO法人として平成15年6月に成立しました。

NCOSでは、消費者が規格の作成や政策決定に積極的に参加できるよう、標準化に関する様々な課題を取り上げ、セミナーや勉強会、アンケート調査等の情報交換・情報発信等の活動を行っています。

NCOSは、H18年に国際消費者団体連盟であるCI(Consumer International=国際消費者機構)に加盟し、国際的な視野を重視するNPOを目指す。

調査の背景 子どもの事故の実態（調査当時）

0～19歳の不慮の事故による死亡数(2007年) 1115人

年齢階級別に見た死因順位

年齢	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
0歳	先天奇形等 1,041	呼吸障害等 375	突然死症候群 145	不慮の事故 125人	出血性傷害等 121
1～4歳	不慮の事故 177人	先天奇形等 159	悪性新生物 85	心疾患 60	肺炎 59
5～9歳	不慮の事故 151人	悪性新生物 96	肺炎 37	先天奇形等 36	心疾患 31
10～14歳	不慮の事故 125人	悪性新生物 111	自殺 47	心疾患 36	先天奇形等 28
15～19歳	不慮の事故 537人	自殺 456	悪性新生物 160	心疾患 84	先天奇形等 35

(出所:厚労省 2007年人口動態統計)

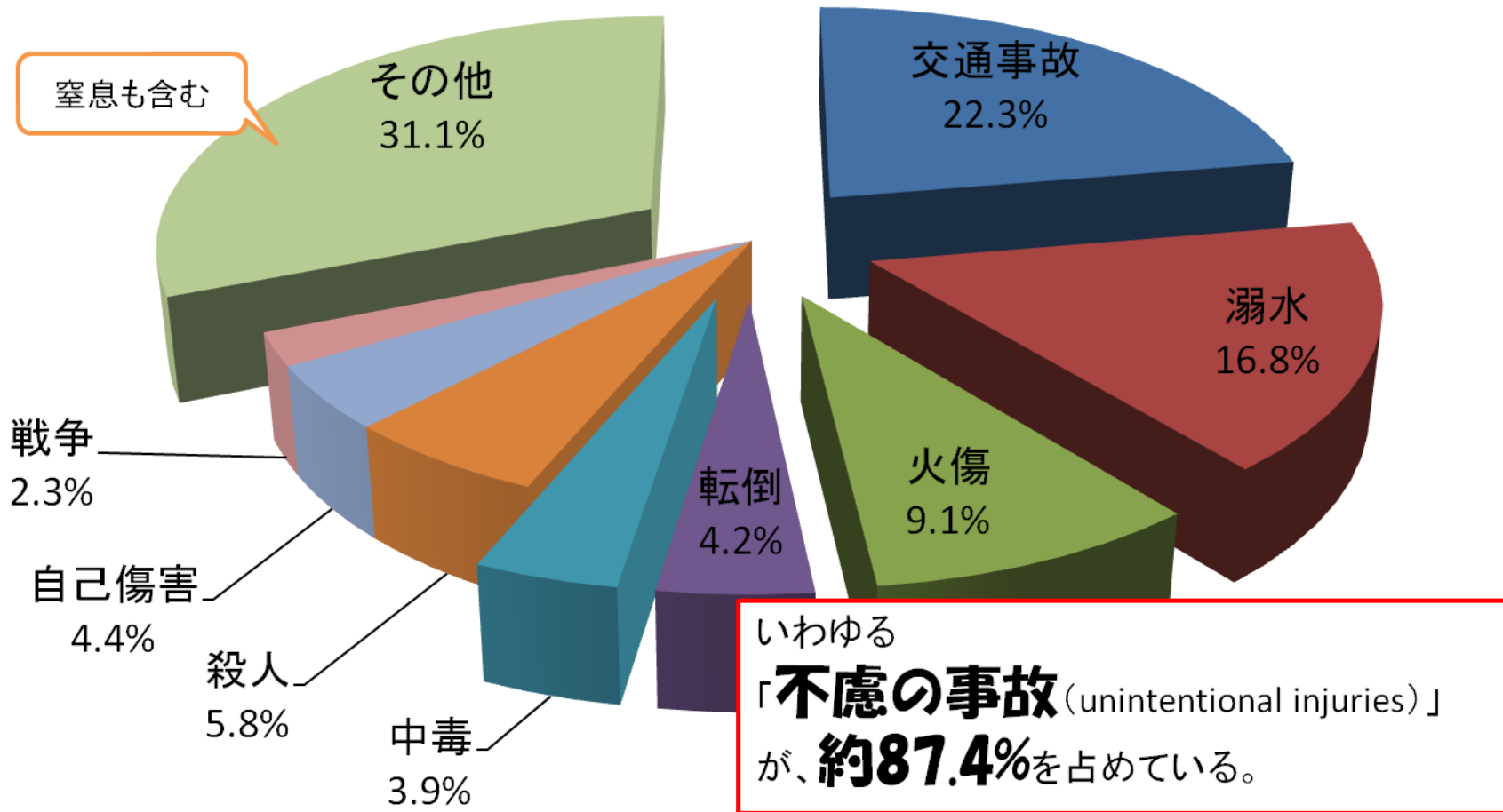
最近の子どもの「事故」の実態

- ・2009年人口動態統計（確定数）の概況
- ・変動が見られるが、男子（年齢別）は相変わらず第1

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/suii09/deth8.html>

WHOのデータを見ても、世界の子どもの不慮事故による傷害・死亡が多い

18歳未満の子どもの死亡原因(毎年約90数万人)



他の先進国では、

- ・子どもの安全は、国の重要な政策テーマの一つとなっている
- ・消費者政策においても、子どもの安全が重要な課題である
- ・規格(強制・任意)は、重要な役割を果たしている
- ・情報提供も重要視されている
- ・最近の規格のトピックス→
全ての製品作りについて、子どもの視点が重要であるという認識が高まる(ISOガイド50)

豪州競争・消費者委員会 (ACCC) “ Keeping Baby Safe ”



<http://www.accc.gov.au/content/item.phtml?itemId=655340&nodeId=422e31eb58c975499022fa9f2609fda4&fn=Keeping%20baby%20safe%E2%80%94July%202009.pdf>

世界的な取組 「Kidsafe」

the **child accident prevention** foundation of australia



Roll over a state to locate a Kidsafe office and then click to visit their website.



Making a Safer World for Kids
for over
30
years



Welcome

Help us
continue
to keep
Kids Safe

Donate Today

Kidsafe Australia gratefully acknowledges the Leycester Meares Bequest for supporting the development of this website

<http://www.kidsafe.com.au/>

NCOSの子どもの安全のアンケート調査のきっかけ

二段ベッド



出所:ACCCのリコールのポータルサイト <http://www.recalls.gov.au/>

NCOSの調査概要

「子どもの安全」ワーキンググループ(WG)を作って調査研究(2007年10月～2008年10月)

1、アンケート調査実施 (日本人ママ、在日欧米人ママ)

2、グループミーティング

(回答者数名とWGメンバーによるミーティング)

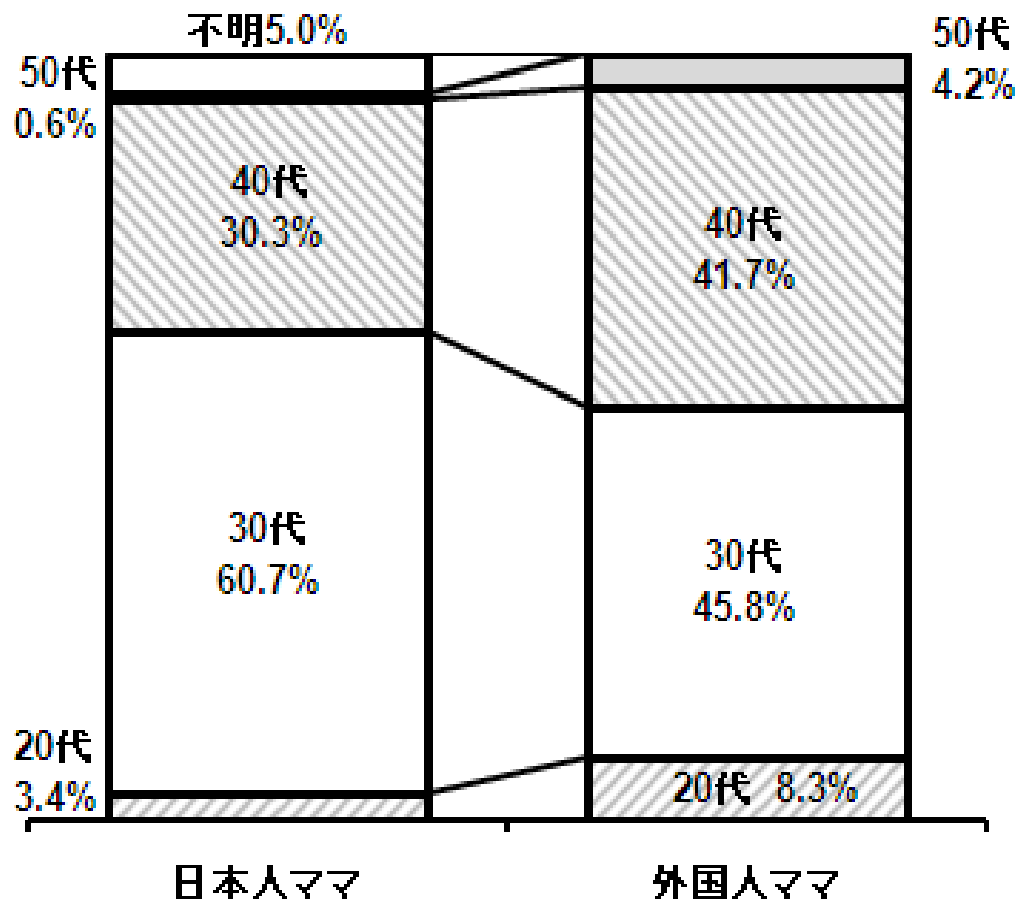
3、インタビュー(回答者数名に個別ヒアリング)

4、文献調査

5、最終報告書

アンケート回答者プロフィール

「小学生以下の子どもを持つお母さん」



不明	9人	5.0%
50代	1人	0.6%
40代	54人	30.3%
30代	108人	60.7%
20代	6人	3.4%
合計	178人	100.0%

日本人ママ

不明	0人	0.0%
50代	1人	4.2%
40代	10人	41.7%
30代	11人	45.8%
20代	2人	8.3%
合計	24人	100%

外国人ママ

アンケート設問内容

- Q1 子ども関連用品6品目を購入する時、「安全性」をどのくらい重視するか
『二段ベッド』『自転車用ヘルメット』『子ども用補助席付自転車』
『ベビーカー』『おもちゃ』『衣服』
- Q2 子ども用品の安全確認の方法
(形状・材質、安定性、安全マーク、ブランド、生産国、など)
- Q3 安全チェック項目の情報入手先
- Q4 安全情報入手満足度
- Q5 安全情報入手が不十分な時、その理由(企業、行政、マスコミ等)
- Q6 子ども用品に関する怪我の経験(自由記入)
- Q7-1 子どもの生活の中で、子どもが怪我をしそうな危険箇所(自由記入)
- Q7-2 子どもの安全性確保のために行政、企業、親のすべきこと(自由記入)
- Q8 子どもの安全に保護者として日常生活で心掛けていること(自由記入)

アンケート回答

図1 商品の購入時に最優先する項目(6品目全体)

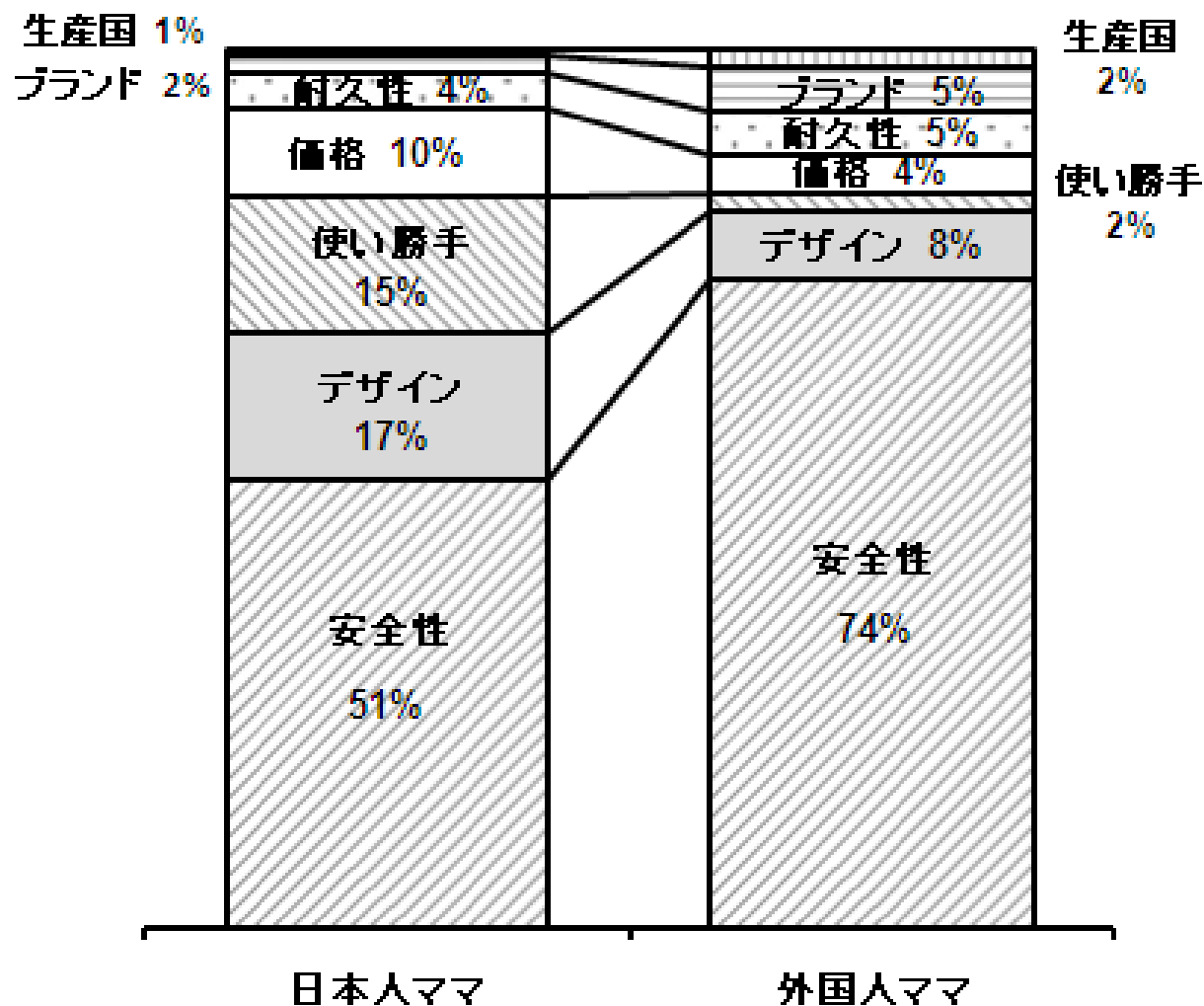
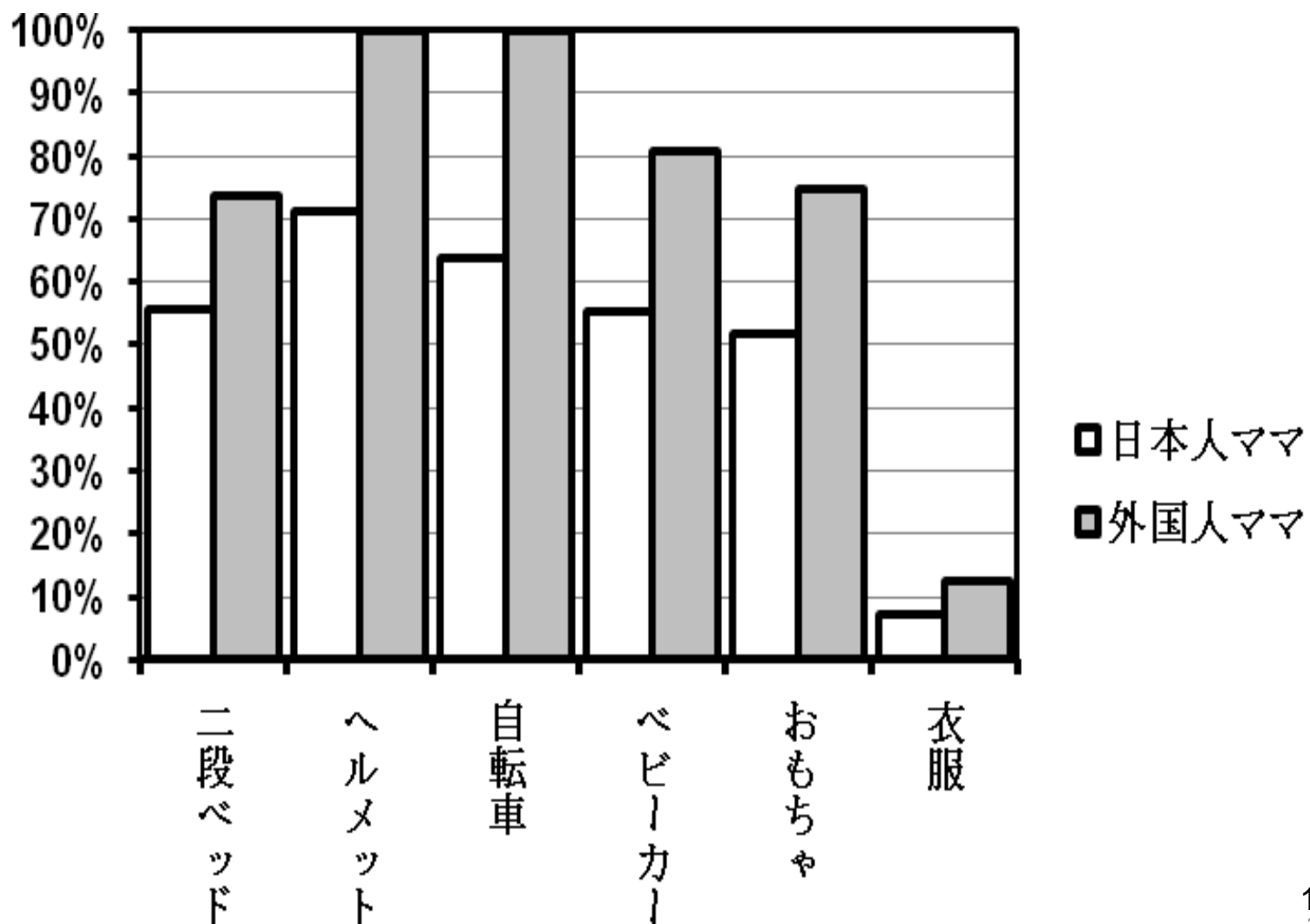


図2 品目別「安全性」選択割合



アンケート回答

図3 「安全性」を確認する時の情報入手先

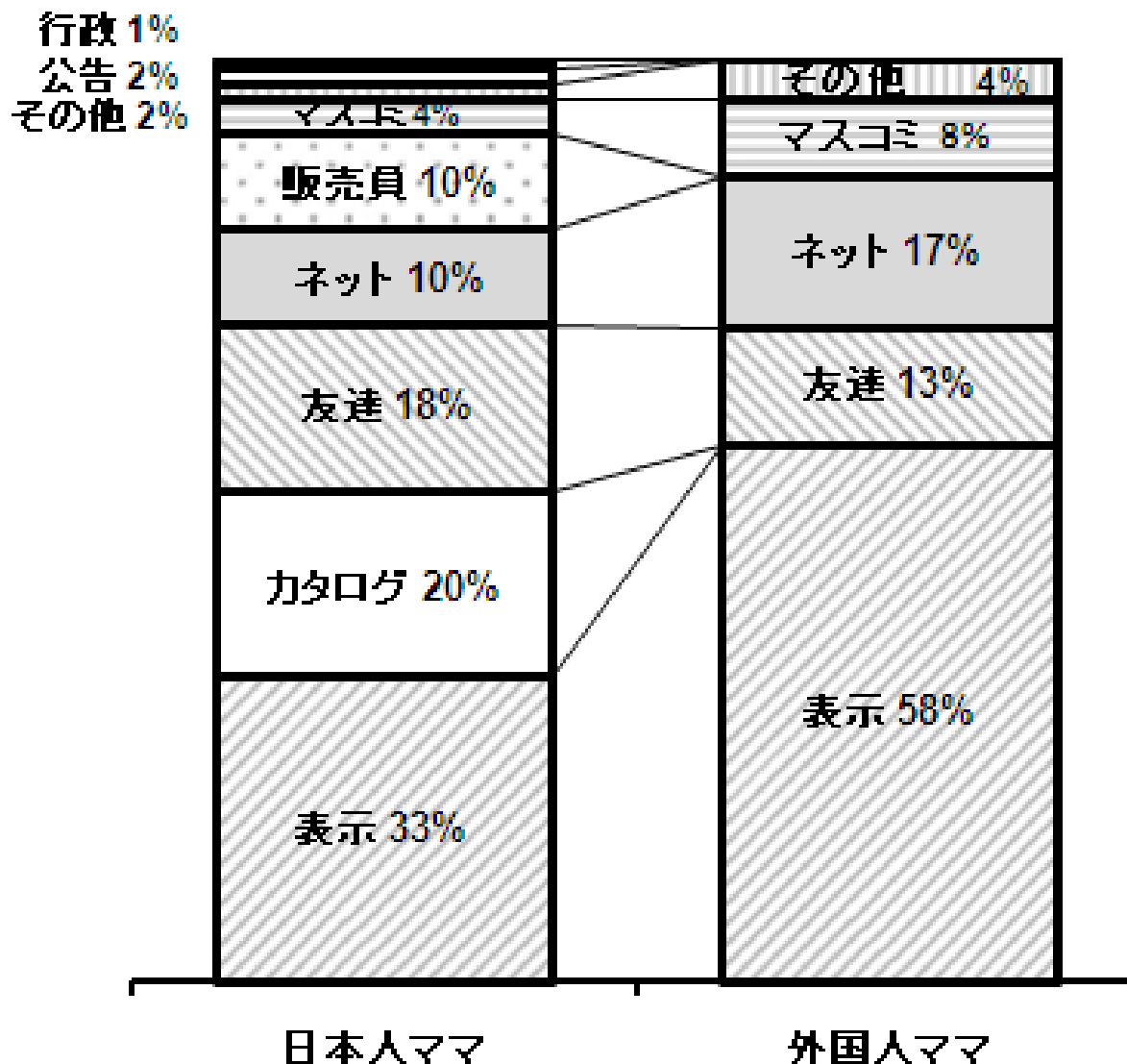


図4 安全情報を十分に入手できたか

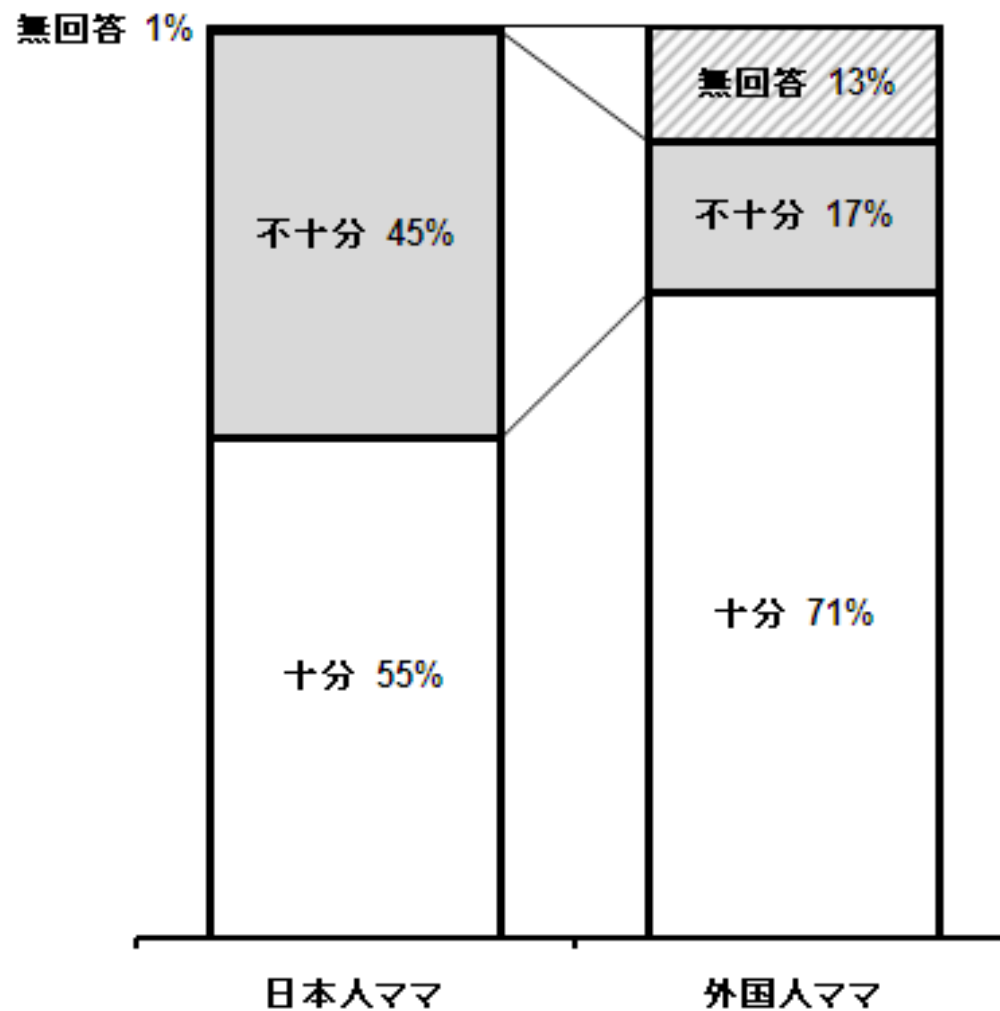


図5 子どもの安全性確保をどこに求めるか

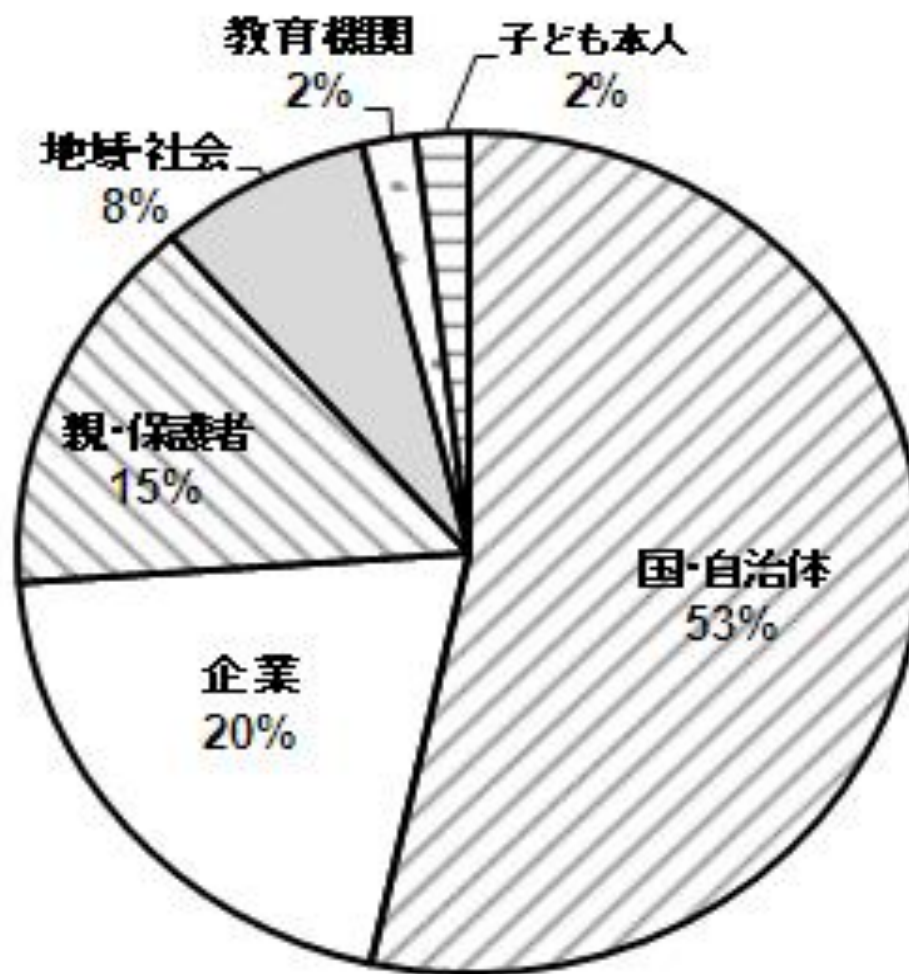
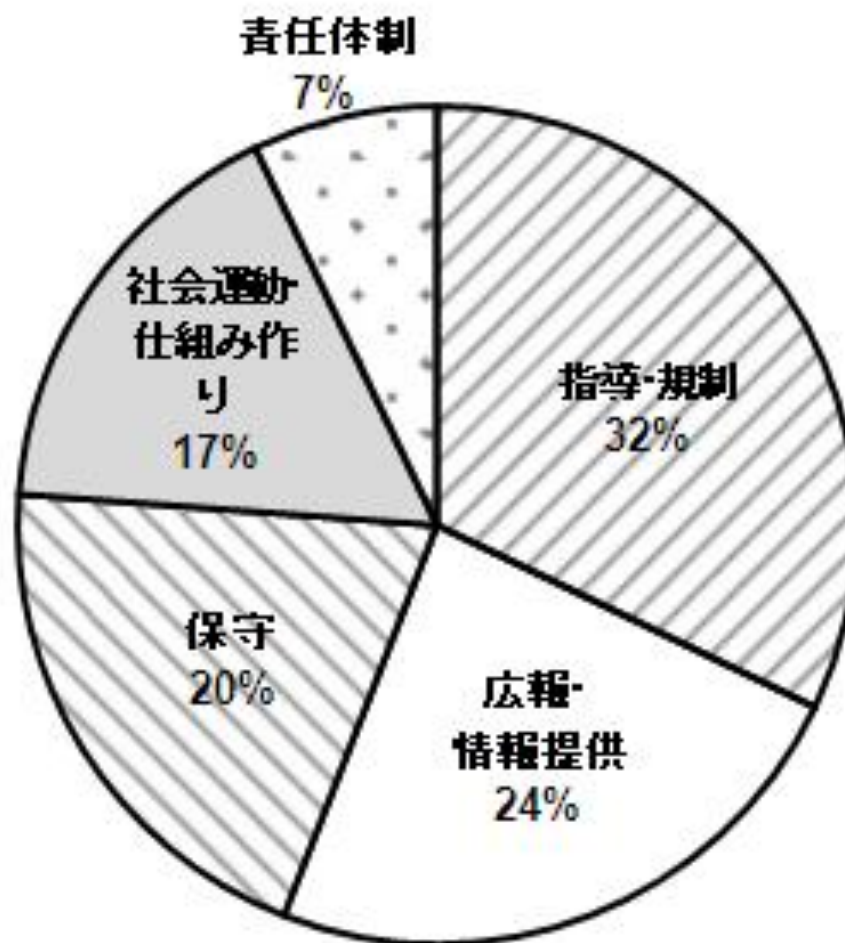


図6 国・自治体等には何を求めるか



結論

1、「子どもの安全」に関する重視度(意識)について

- ・尋ねてみると問題意識はけっこうある。(アンケートには積極協力)
- ・外国人ママと比べて見ると、意識が高いとは言えない。

2、「子どもの安全」に関する情報について

- ・日本では「子どもの安全」に関して一元化された情報がない。
- ・保護者は自分で情報を取りに行くというより、現状のレベルに安住している。海外に比べて情報が乏しいことに気がついていない。
- ・外国人ママは世界規模でネットなどを通じ信頼性のある事故情報や安全情報を入手できる。また、外国人ママは確かな情報の入手に大きな努力を払っている。

(このことが安全意識の高さにも反映しているのではないだろうか?)

3、保護者や子どもに対する指導・教育について

- ・社会や学校で、傷害事故の重大性について学ぶ機会は少ない。
- ・重大な事故は社会の力で防止すべきこと、一方で子どもに危険回避力をつけさせることも重要である、という意見は日本人・外国人双方に見られた。

「子どもの安全(傷害事故防止)」について

1、情報の一元化

- ・傷害事故情報、傷害事故予防のための活動情報など

2、行政、事業者、メディア、消費者それぞれの役割の明確化

- ・子どもの傷害事故防止について何かをしているか
- ・各サイドの活動が連携して効果を上げているか
- ・正しく公平な情報発信をしているか

3、みんなで考えること

- ・保護者や子どもへの安全教育のありかた、社会環境の改善

キッズデザインの推進に必要なのは？

行政・企業・消費者の役割の明確化

1、行政

- ・消費者政策におけるKDの位置づけ
- ・KDを重要視する環境作り

2、事業者（企業）

- ・KDへの積極的な取組→経営理念へ（CSR, 消費者権利）
- ・消費者（顧客）との双方向的なコミュニケーション

3、消費者

- ・情報収集、学習
- ・企業のKD取組への理解、支援

コラボレーションは大事です！

おわり

ご清聴ありがとうございました。



お問い合わせは
NPO法人**NCOS**へどうぞ！

www.ncos.gr.jp